



かがやき自立活動通信

平成29年9月28日 NO. 45

今日で前期が終わります。この半年の間での成長をそれぞれ振り返る機会になればと思います。そして振り返りながら、子どもをたくさん褒めて頑張ったことを評価しましょう。今回は、「行動上の問題」について、一緒に考えていきたいと思います。

行動上の問題とは

行動上の問題は様々な形で見られますが、この行動の部分には幾つかの捉え方があります。行動上の問題の例を挙げて考えると、

周囲が困る行動（離席や物を投げる、引っ張る、たたく、蹴る、自傷する 他）

- ①相手の気をひく、相手の反応を楽しむ。（注意）
 - ②要求表現として、トイレに行きたい、取ってほしい、別の場所へ行きたい 等（要求）
 - ③遊びなどの手段として自分の体を使う、他者の体を攻撃して確かめる。（感覚）
 - ④拒否、その場から避難したいとき。（逃避）
- 等、4つの要因から考えることができます。

行動上の問題を助長する要因（一例）

上記で行動上の問題として見られる一部の場面を紹介しました。しかし、よく考えてみますと、一部の行動には、大人の見方でそのように困った行動として捉えられているものもあります。

- コミュニケーションの手段が乏しく、子どもが自分ができる限られた行動でないと表現できない。（自分の意思や要求を様々な表現手段を用いて表現した行動）
- 支援者の反応が、子どもが関わりで得たい刺激、期待する行動（反応）になっている。（刺激や反応を得るための子どもの意図的な行動）
- 子どもたちが持てる力で発信しているにも関わらず、支援者側が適切な行動でないと捉えている。（支援者側が子どもの行動から決めつけてしまう）

適切な支援を心がける

行動上の問題は、子どもの個々の状態や様子、障害による特性、興味関心（人・物）等をよく理解して支援することで極力引き起こさないようにできます。行動上の問題は、子ども自身が頑張っただけで見つけた方法の場合もありますし、支援者がその場面ごとで何とかしたい気持ちから学ばせてしまった部分等、様々な理由があります。行動上の問題が少ない生活を目指していくために、以下のことに配慮してみましょう。

社会で活かせる行動を増やす

例えば、はじめに適切な方法を教えることで、それを固定化して将来に活かしていく力にします。そのため、「はじめ」を大切に、将来まで変更がなくて済むものを教えていきます。

- あいさつならば、「おはようございます」「こんにちは」「ありがとうございます」など。
- 何かする時は合図や教材を使って伝えてから行います。絵カードで伝える、トントンと直接知らせるなど。

日常的に繰り返されるものは、大きくなっても自分でできる力にする

成長しても、同じようにできるものを確立します。着替えの手順、食事の摂り方、トイレの済ませ方等があります。

- 着替えでは、プライベートゾーンをなるべく見せないように、上を脱いだら上を着る、の手順で着替えるなど。
- 食事では、よく噛んで食べる、お皿を持つ、バランスよく食べるなど。

肯定的な表現を目指す

感情的な言葉かけは子どもの主体性を減少させてしまう恐れがあります。また、大人の様子を逆に楽しみに変えてしまう場合もあります。大人が適切なことを肯定的な表現で丁寧に伝えることで、子どもの望ましい行動を増やすことができます。

支援者間の共通理解を図る

適切な支援を行っても、人によって対応が変わっては定着しません。子どもたちを支援する支援者が、同じ関わり方、対応をすることで子どもたちの混乱を少なくし理解を深めます。常に情報交換しながら支援をしていくことが大切です。



【自立ノート】

前期が終わり、秋休みを経て後期の授業がスタートします。前期という半年の中で、子どもたちはそれぞれ頑張ってきたことがたくさんあります。それらが、前期の通知表を通じて評価されています。できたことは勿論、できてきたこと、やろうとしたことなどの変化からも子どもの成長を褒めていきましょう。褒められることで、子どもたちは自分の取り組みに自信が持て、次へ向かう力につながります。子どもたちの前期の成長をぜひみんなで確認してください。後期に向けて、さらに子どもたちが成長していけるように、みんなで応援していきましょう。